

オンラインとFMラジオを活用した 市政広聴会を開催



コロナ禍による広聴事業の一環として、デジタルを活用したオンライン形式とデジタルが得意でない人への対応としてFMラジオ放送を活用した市政広聴会を開催し、「暮らし」「子育て」「教育」など、生活に密着した課題や様々な分野の提案について、意見を交わしました。主な提案・意見とそれに対する市の回答を紹介します。

オンライン参加者は自宅や職場、学校などから参加しました。

問総合政策課（本庁舎内） ☎ 82 - 0916

■オンライン形式 / 8月21日（日）「学生の部」丹波市立看護専門学校生、市連携大学や市内出身の大学生、8月28日（日）「一般の部」たんば生きづらさネット、読み聞かせたからばこ、移住者・移住相談有限責任事業組合、丹波市地域公共交通活性化協議会、丹波市商工会女性部および青年部、丹波市立北小学校、個人事業主、一般応募の人

■ラジオ形式 / 10月5日（水）遠阪自治協議会、丹波市薬剤師会、NPO法人たんばコミュニティハブ、11月2日（水）高校生が創る丹波の未来への架け橋プロジェクト、一般応募の人



オンライン形式

「若者への情報発信の工夫」

LINEやフェイスブック、インスタグラム、ティックトック、ユーチューブなどのSNSを活用し、若者が気軽に市政情報を得られるよう、情報発信を工夫してはどうか。

市回答 情報発信は丹波市の大きな課題だと思っている。市内でも様々なイベントを行っているが、若者をはじめ、多くの人に情報が十分に伝わっていないと感じている。市ではSNSで情報発信をしているが、登録者を増やし、若者が飛びつくような情報発信について研究していきたい。

「子育て世代を支援する政策や環境の整備を」

子育て支援策について、所得制限を設けずに、子育てにかかる費用を補助する施策を実施し、子育て世代の増加とまちの活性化につなげて欲しい。また、幼少期の環境は人にとって大きな影響を与える。自然の中で思いき

り遊べる場所を作るなど、子どもが丹波市で育ち、丹波市を好きになるような環境を整備して欲しい。

市回答 子育てについては今年度施策の重要課題としている。子育て世代にかかる費用のすべてを免除・無料にするというのは困難であるが、誰もが末永く暮らし続けられるまちをめざし、バランスを考えながら検討を続けていく。また、市では丹波市のことについて学ぶ「丹波ふるさと学」を実施し、心の教育を行っている。子育ては地域など周囲の協力も大事であり、そうした環境の整備も検討したい。

市回答 介護施設を増やすには大きな課題が2点ある。1点目は、保険料負担における、財源的な負担が大きくなること。2点目は介護人材が全国的に不足していること。例えば介護施設を増やすと、丹波市に100床程度の施設を建

「介護施設を増やして欲しい」

介護施設を増やし、軽度から重度の人までを受入れることで、自分の仕事と親の介護の両立を図り、介護による早期退職を防ぐことにつながるのではと考えている。

市回答 介護施設を増やすには大きな課題が2点ある。1点目は、保険料負担における、財源的な負担が大きくなること。2点目は介護人材が全国的に不足していること。例えば介護施設を増やすと、丹波市に100床程度の施設を建

ることになり、保険料の負担額がかなり必要になる。私たちや高齢者の方に負担を強いることになり、現実的には厳しい状況だと考える。

「交通面の不便さを解消して欲しい」

バスや電車の本数が少なく、自家用車がないと移動が困難。免許を持たない世代は特に不便を感じている。そこで、レンタルサイクルなどを街中に設置して、少しでも移動手段を確保する施策はできないか。このほか、シェアカーやデマンドバス、タクシーといった、好きな場所・時間に予約して乗ることができる交通手段の導入はできないか。

市 回答

最近は大学の研究などで学生の皆さんが丹波市を訪れる機会が増えている。レンタサイクルの設置など、自家用車を持たない人が気軽に周遊できる方法について、引き続き検討したい。また、路線バスの年間利用者は平成25年度の約9万6千人から年々減少し約4万8千人にまで落ち込んでいたが、路線の再編やバス停の新設を行い、令和3年には約7万2千人にまで回復した。公共交通機関の利用者数減少は、ダイヤの減少につながり、より不便になることが懸念される。今ある交通資源を守るた

め、利用促進など、有効な策を引き続き検討したい。

「地域の企業を知る機会を」

地域

域を知ることは、地域を愛することであり、それが地域振興やまちづくりにつながると思う。進学で市外へ転出した人が、就職などで丹波市に帰ってきてもらうために、小学生から高校生のうちに、地域の企業について知る機会があると良いと思う。

市 回答

市民が地元企業の魅力などを知れることは本当に大切だと考えており、小学生を対象とした市内企業見学のバスツアーを計画したところ、100人を超える応募があり、関心の高さがうかがえた。残念ながらコロナで中止となったが、来年度の実施を検討している。

「女性参画促進の支援を」

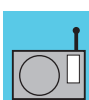
自治会

活動や協議会などの場面に女性や、子育て世代が参加して発言することは、地域の暮らしを良くするために、とても大切だと思っている。そうした場で女性や子育て世代の人が発言しや

すい環境やポジション作りを市からもサポートして欲しい。

市 回答

誰もが暮らしやすい地域づくりをするためには、多くの参加を得ながら、親や子どもなどの多様な意見を聞いて進めていくことが大事である。そのためには地域運営に多くの人が参加し、自由で多様な意見を交わすことができる環境づくりが必要。そうした環境づくりについて自治会の役員と一緒に考えていきたい。



ラジオ形式

「交流人口を増加させ、地域に賑わいを」

自治会

は、機能の低下や存続の危うさ、農地の荒廃化、など少子高齢化がもたらす深刻な課題を多く抱えている。このような課題を解決するために、地域外から人を呼び込み、交流人口の増加や、外部の人材を受け入れて、地域での賑わいを復活させることが必要であると考えている。

市 回答

青垣地域にある関西大学佐治スタジアムを通して、多くの学生が地域に入り、活動している。交

流人口や関係人口とのかかわりが深いこのような取り組みは、地域の賑わいの創出につながると考えている。今後も各地域の皆さまと学生が交流できる取り組みを検討したい。

「観光ルートを設定し、観光客誘致を」

観光戦略

の一環として、多様な市内観光ルートを設定し、さらなる観光客誘致の方策を提案する。

市 回答

観光資源を有効に活用した観光名所のルート化は、丹波市を巡るうえで非常に有効な方策と言える。地域別だけでなく、歴史や自然をテーマとしたルート化は、観光人口を確保する上で重要であると考えている。また、ドラマのロケ地や舞台となることで、新たな視点での観光名所につながると考えている。今後、様々な視点でルートを研究していきたい。

掲載の提案意見や回答内容は、紙面の都合により、一部を抜粋して掲載しています。そのほかの提案意見や回答など、当日の動画については、市のホームページから確認できます。

